ルーネ

神童サーガ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ルーネ

【Ｎコード】
Ｎ４２６１Ｆ

【作者名】
神童サーガ

【あらすじ】
エクソシストの少年と普通？の女の子の話。何だかんだ言っても大好きなんです。ツンデレ少年です。

世は、中世時代。時代の波に飲まれない屋敷があった。
内装は、北欧のはずなのに、屋敷は東の島国のような平屋建てだった。
外装は、北欧神殿を思わせる。
ギャップが激しかった。
そこに、住んでるのは、我関せずという風に寝転がっている少年と、ゴスロリ調のメイド服を身に纏った少女だった。
少女の方は、雑巾で必死に掃除をしている。泣きながらだ。

「ネル・・・まだ汚い」

「ルーイ様・・・寝てて何もして無いくせに命令しないでください」

少年の名は、ルーイ。少女の名は、ネル。
ネルは、うんざり顔でルーイに言ったが、無視をされた。そして、ルーイはネルに言った。

「主人の命を、まっとうするのが当たり前だろう」

「くっ・・・なんで我が儘主人に・・・」

ルーイは、エクソシストだ。ネルは、ルーイに召喚された、“ア

クマ”と“テンシ”のハーフだったのだ。
ネルの言葉に、カチンときたのかルーイはネルに、更に酷い命令をしたのでした。
それは、いつもの光景です。

「ん？・・・・仕事みたいだ」

やっと重い腰を上げたルーイ。
ネルは、いつの間にか黒い封筒を持って来た。
ルーイは、ネルが持ってた封筒を奪い、乱雑に開けた。
封筒には、白色の毛筆で『天誅』と書いてあった。
ルーイは、趣味が悪いと思いながら中身を読んだ。
ネルは、封筒の中身が気になる様子で、ルーイの周りをウロウロする。それに苛立ったルーイは、ネルの頭を容赦無く殴った。
ネルは、涙ぐみながら、頭を押さえて座り込んだ。

「・・・・チッ」

読み終えたようで、手紙をポイッと投げ捨てた。
その手紙を、ネルはサッと取った。

「ん～。なになに・・・・『ローイド橋にアクマ出没』・・・・また？」

ローイド橋というのは、北欧の無名諸国で一番大きいとされる橋だった。
そのローイド橋は、アクマが一番出やすい地区なのだ。

「行くぞネル！」

外は、雪が積もってる。真冬の寒さが身に凍みる。
コートの襟を立てながら外を歩く。
はく息は白く。唯一出てる頬が赤くなる。

「寒くねーのか？」

「私は、平気ですぅ！」

未だにメイド服のネルを見て言ったルーイ。
ネルは、まだ怒ってるのか不貞腐れてる。

「見えてきたな」

暗い闇に浮かぶ橋の街灯。

空しいほどに人の気配は無い。

「・・・・来る」

ネルは言った。シーンと静まり返ってる闇の中に、ネルの低い声が響いた。
そのネルの言葉に、表情を変えて、コートから何かを出した。
それは、雪のような銀色の銃だった。
銃を構えた途端に現れたのは、人だった。
でも、人と違うところがあった。それは、目はクレヨンで塗りつぶされたように真っ黒くて、澄んではいなかった。
口は、裂けたように大きくて、耳も狼のようにフサフサだった。
アクマは、銃を持ったルーイよりもネルに襲いかかった。

「ネル！！」

「っ！！」

なぜか動かないネルに叫ぶルーイ。
ルーイは、今まで出したことのないスピードでネルの元に向かった。

「くはっ！！」

「ルーイ様！！」

アクマの手がネルに当たる直前にルーイは、ネルを庇った。
攻撃を受けたルーイは、吹っ飛ばされて街灯にぶつかった。
息をし辛そうにしてるルーイ。

「・・・・許さない。ルーイ様に手を出すなんて」

聞こえるか聞こえないかの声で言ったネル。
例え、どんなことされても自分の主だ。手を出されて、普通でいられない。

「覚悟なさい！！」

一瞬で、アクマに近付いて、アクマの右足を払った。体制を崩したアクマの顔に、ネルの膝が当たる。
後ろに反り返ったアクマに、白い光りがぶつかった。
白い光りの元を目で追うと、ルーイが肩で息をしていた。
どうやらルーイの銃がアクマを貫いたようだ。

「ルーイ様！！」

怪我を負ったルーイに近付くネル。
しゃがみ込んでルーイの顔を覗き込むと、殴られたネル。

「痛っ！！何するのよ！！」
「アホ！！なんで動かなかったんだ！！」
涙目のルーイが叫んでた。
「心配して・・・くれてたんですか？」
「違う・・・」
「涙目ですよ？」
「痛かっただけだ！！」
フフッと、笑ってルーイを背負ったネル。
一度アクマの方を見たが、灰になり消えたのを確認してから家路に着く。
「・・・ありがとうルーイ様」
「・・・・別に」
凄く幸せで、身体が熱くなったのを感じて笑うと、殴られた。

「何するんですか！！」

「笑うな」

本当に幸せだったんだ。こんな幸せも良いな、と思ったネルだった。

ルーイは、見慣れた町並みを見つめて考えた。どんな奴が現れても守る、と。でも、こんなことを言ったら調子にのるな、とも思った。

（後書き）

ツンデレっぽく無いなぁ。もっと頑張って欲しかった。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4261f/

ルーネ

2010年10月28日05時57分発行